

当院の脳神経内科は筋萎縮性側索硬化症やパーキンソン病関連疾患などの神経変性疾患を中心とした難病医療を提供しています。大学病院や近隣の医療機関からの紹介患者さんに対して、患者さんの意思による治療方針の決定支援、在宅医療への橋渡し、定期的な胃ろうチューブ交換、人工呼吸器導入、病状評価や症状に合わせた薬剤調整などを行っています。在宅医療との連携で、少しでも長く住み慣れた自宅での生活が続けられるよう支援を行わせていただいております。

外来診療では脳神経内科の幅広い紹介に応えられるように努めていますが、その中で多い症状の一つに“物忘れ”があります。当科では全ての外来担当医が“物忘れ”の診察を行っております。当科の認知症診療のお勧めの一つは経験豊富な臨床心理士による詳細な認知機能検査です。認知症検査についても画一的ではなく、対象疾患に適したものを適宜組み合わせることができます。外来の賑やかな状況下ではなく、落ち着いた静かな環境で認知機能検査のプロフェッショナルによる検査を受けることができます。当科の“物忘れ”診療のもう一つのお勧めが核医学検査です。高齢者の軽度認知障害や軽度認知症においてMRI検査にて海馬萎縮が僅かな場合にも、脳血流シンチグラフィーはアルツハイマー型認知症を示唆する脳血流低下パターンを検出することができるため診断に有用な検査です。診断後は紹介元を中心とした、かかりつけ医に紹介させていただき、治療の継続をお願いしております。紹介後も希望により年に1回程度の病状評価を外来にて実施しており、地域の先生方との連携を大切にしております。また状況により、新規治療法である抗アミロイド抗体療法導入医療機関への紹介をさせていただきます。誰もが認知症になる可能性があるこの超高齢社会において、認知症の方が地域で共生できる社会づくりの一助として、当科は早期診断の役割を担わせていただければと考えております。

認知症以外に多く診療している疾患としてパーキンソン病があります。動作が緩慢になり、歩行が猫背で小刻みになってきた、膝に置いた手が震えるなどの症状がある方は当科外来を受診してみてください。パーキンソン病関連疾患に豊富な診療経験を持つ当科スタッフが診察をさせていただきます。加えて、パーキンソン病関連疾患の補助診断として優れるドーパミントランスポーターシンチグラフィーおよび心臓交感神経シンチグラフィーなどの核医学検査も威力を発揮します。集中的に検査を行い、治療薬の導入やリハビリテーションも行う検査入院もお勧めしています。入院では、医師による薬物治療に加え、神経難病のケアを常時実践している看護・介護スタッフによるアドバイス、神経難病のリハビリテーションに常に携わっている理学療法、作業療法および言語療法士による歩行・運動・巧緻作業・会話・嚥下機能向上のための訓練をしっかりと行い、自宅での生活に役立てるようサポートします。当科は神経変性疾患の神経難病医療と認知症診断にて地域に貢献できる脳神経内科を目指しております。今後ともよろしくお願いいたします。

脳神経内科スタッフ一同



にとな便利

第46号
令和7年1月

独立行政法人国立病院機構 千葉東病院 〒260-8712 千葉市中央区仁戸名町673 Tel.043-261-5171

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。皆様は穏やかでよいお年を迎えられたことと思います。新年を迎えまして年頭のご挨拶を申し上げます。昨年も、災害、物価高、国際紛争など、決して「いい年であった」とはいえない年であったと思います。今年こそは、いろいろな課題を乗り越え、「いい年であった」と言える年になってもらいたいものです。

そんな中、世の中にはAIをはじめとするデジタル化が目に見えて広がってきていると実感しています。何となくAIが作った文章、音声がかかるようになってきました。囲碁はAIが早い時期から影響を及ぼした分野の一つです。しかし、囲碁はAIに支配されてしまうの

ではなく、AIの考え方を取り込んで進化しているように思います。昨年、囲碁の「AI対碁」が日本勢としては19年ぶりに国際棋戦で優勝しました。「AIの予想手になかった一手を繰り出して、優勝を果たした」と報道されています。新しいことを取り入れ、消化して自分のものとし、そして進化している、素晴らしいことだと思います。医療の世界でもAIが導入され始め、業務の効率化、診断、治療の精度向上はじめ、多岐な分野で役に立っているようです。我々も、デジタル化による業務の効率化で考える時間を増やし、AIとうまく付き合って自らも進化させていく必要があるのだと思います。同時に医療の世界の特徴は、人と人のつながりが不可欠であるということです。「AIの言うことの方が信用できる」のではなく、患者さんごとの病院で検査を受け、治療、看護をしてもらってよかった」と思っていたら、進化を続けたいと思っています。

さて、既にホームページでも公表しておりますが、4月1日から千葉東病院の運営体制は、同じく国立病院機構の病院である千葉医療センターと1施設2病院化に移行します。「千葉東病院どうなってしまうんだ」と不安になる方もいらっしゃるかもしれませんが、心配は無用です。千葉東病院が移転することはなく、診療科も減ることはありません。1施設2病院化は、2つの病院の連携を今まで以上に強化して医療資源を有効活用し、診療レベルを向上させ、業務の効率化をすることが目的です。現在の千葉東病院では専門医がいぬ分野でも、千葉医療センターの専門医が診療に来てくれる、あるいは相談のつてもらうなどして、対応できる範囲を広げることが可能となります。高齢化が進むこれからの時代は「多病」の患者さんが増えていきます。病院の守備範囲を広げることで、複数の病気をうまく付き合っ、元気で長生きできることを目指しますので、結果として患者さんのためにもなるものと確信しております。

最後になりましたが皆様のご健勝とご多幸をお祈りし新年のご挨拶とさせていただきます。今年も患者の皆様、医療・介護機関の皆様のお役に立てる病院目指して職員一同頑張らせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



院長 西村 元伸

認定看護師紹介

摂食嚥下障害認定看護師 坂上 智弘

摂食嚥下障害看護認定看護師とは、病気や障害で食事ができない患者さんや、誤嚥のリスクが高い患者さんの「飲み込み」について、専門性の高い看護を提供する役割があります。今年度より、摂食嚥下に関する認定看護師として活動を開始し、専門的知識と技術をもとに、患者さんの食事・栄養管理・口腔ケアに携わっております。私は、食事と歯の健康は患者さんの人生の豊かさを支えていると考えており、それを支えるお手伝いさせていただいております。

患者さんに限らず、ご家族様、地域を支える医療従事者の皆様のお力になれることがありましたら、何でもご相談ください。



これなーんだ？

この機械でできることは何でしょうか？

< ヒント 1 >

★パネルを拡大すると～
蒸気や熱のマークや肉や魚のイラストだね

< ヒント 2 >

★調理室で毎日活躍します



こたえは

これは「スチームオープン」です。
入院中の食事で提供する肉や魚を焼いたり蒸したりします。扉の中にはたくさんの材料を並べられるような段があります。

栄養管理室

「第11回 病院deあかり展」

療育指導室 綿貫 百恵

重症心身障害病棟にて、去る11月7日(金)～15日(金)に「病院deあかり展」を開催しました。今年度のテーマは『祭』とし、屋台の食べ物を模したライトや、利用者さんたちが制作した絵画を展示しました。会場となった療育訓練室の入口前の廊下には、利用者さん手作りの提灯が飾られ、その幻想的な光に照らされた道を通ると、お祭りへ向かう期待感が一層高まるようでした。

会場に入ると、まずは光るバルーンアーチがお出迎えし、そこをくぐると『感触』『お面』『かき氷』『綿菓子』『映像』などの屋台をイメージしたブースが立ち並び、まさにお祭り会場のような雰囲気でした。感触コーナーで光るヨーヨーを触り、利用者さんたちは大喜びでした。中には、ヨーヨーをずっと手に持って揺らし、嬉しそうに灯りを眺める利用者さんもいて、その嬉しそうな姿に私たちも嬉しくなりました。綿菓子・かき氷コーナーでは、アロマオイルを垂らした飾りの甘い匂いを近くで嗅ぎ、驚いたように目を見開く利用者さん。うっとりとした表情を浮かべ、デザートのような魅力的な香りに興味津々なようでした。

お祭りの賑やかな雰囲気を楽しんだ利用者さんたちは、余韻を味わいながら、紅葉やキノコなどの秋をイメージした灯りが飾られた部屋でゆったりとリラックスして過ごしました。

昨年度までは、感染予防の観点から重症心身障害病棟の利用者さんに限定していましたが、今年度は院内公開日を設け、他病棟の患者さんや職員にも参加してもらうことができました。少しでも皆さんの憩いのひとときになっていたら幸いです。次年度も、皆さんに楽しんでいただけるような行事を計画していきたいと考えています。



利用者さん手作りの提灯を飾りました



光るヨーヨーを揺らして感触を楽しみました



日本各地のお祭りの映像を楽しみました



綿菓子やかき氷の甘い香りに心揺さぶられました



会場全体の様子



秋らしいキノコの灯りは可愛らしかったです